

せいよ
生活協同組合コープえひめ(西予支所)

～産消交流・農業体験で産地を元気に！～



鎌を使っでの稲刈り体験



お米づくりに活躍した合鴨とのふれあい

経緯

- 1974年7月12日に生活協同組合として発足(2004年10月1日 えひめ生活協同組合と生活協同組合アイコープが合併し、生活協同組合コープえひめ発足)。
- 1993年の冷夏の米不足をきっかけに「安心できる国産米を利用したい」との願いから、特別栽培米の生産が始まった。

取組内容

- 宇和合鴨農法研究会の皆さんとの交流を通じて、ごはん食や農業の大切さについて学習。
- 西予市宇和町の生産者の田んぼを借りて、毎年稲刈り体験会を実施。
- 鎌を使っでの稲刈り体験、生産者からお米の話、お米づくりに活躍した合鴨とのふれあい、お米クイズなど、食育の一環として生産者と交流。

活動の効果

- 農業体験等による生産者との交流活動を通じ、子どもたちは自然や農業に対する関心度が高まった。
- 農業体験を通じ、生産者と消費者がお互いに顔の見える関係が生産者の栽培意欲につながった。
- 消費者と生産者が体験会により顔の見える関係を構築していることから、安定的な取引が継続されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

稲作体験など「食」に関するイベントや、食の安全・食生活など食育に関する学習などを通じ、子どもたちに「食の大切さ」を伝えています。

おくませかわそうせいかいぎ

奥松瀬川創生会議

～みんなが活躍できる妖精の里～



ツリーハウス完成披露会



ピザ作り体験教室

経緯

- 平成21年、農機具の購入及び利用、水稻育苗を共同で行う集落営農組織「桜羅(おうら)楽農会」が設立。
- 「桜羅楽農会」メンバーが主体となって住民に呼びかけ、ワークショップの開催や情報冊子を作成。
- 平成28年7月、「奥松瀬川創生会議」が設立。

取組内容

- 地域の高齢者や女性だけでなく、障がいを持つ人たちも参画し事業を展開。
- 地域住民の声から、交流拠点施設「ほっこり奥松」でパン、ピザ、手芸、竹加工の教室を開催。口コミにより、地域外からの参加も増加。
- 耕作放棄地対策として始まった交流農園「ぽんぽこ農園」に、バーベキュー場やツリーハウスなどの付加施設を整備。

活動の効果

- 活動に子どもたちが参加することで、子育て世代の両親も活動に加わるようになり、多世代参加型の活動への一歩を踏み出した。
- 女性や高齢者、障がい者など立場を問わず、すべての人が交流を深めながら活躍。
- 障がい者が利用しやすい施設整備・優遇制度を進めていることもあり、障がい者施設や高齢者団体からの問い合わせや利用が増えてきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

自由な発想から生まれたイメージキャラクターが起点となり、子どもたちや大学生が参画・活躍できる「妖精の里づくり事業」が立ち上がったことで、地域創生事業の輪が広がっています。

もりた まさし

森田 将史

～みんなが活躍できる妖精の里～



子どもが妖精を創作、学生が創作した妖精物語



ピザ作り体験教室

経緯

- 地域おこし協力隊として奥松瀬川地域に着任し、平成28年度から地域課題の解決や地域活性化を支援するため、地域運営組織を立ち上げ。

取組内容

- 耕作放棄地対策として始めた交流農園では、バーベキュー場やツリーハウスなどの付加施設を設置。
- 地域住民が気軽に集える場所になるよう、住民の声を元に教室を開催。
- イメージキャラクター「ほっこりちゃん」を活用した地域の子どもたちによる創作ワークショップや、パンフレットの作成。

活動の効果

- 着任当初、地域創生事業は白紙であったが、協力隊の活動として事業支援を行った結果、組織を立ち上げることができた。
- 事務局として地域コミュニティの再生や活性化事業を実現化していったことにより、地域住民から信頼を得ることができ、退任後も地域の集落支援員に任命され、新たな事業の推進人材として期待されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

妻にイラスト看板制作を依頼したことがきっかけとなり、奥松瀬川地域の地域創生事業の方向性は、誰もが活躍し気兼ねなく来訪できる地域づくりへと舵を切り活動しています。

東温市志津川155番地2 Tel:080-1437-9862

かわい
川井宮農組合

～守りつなぎ楽しむ地域の自然・文化・農業～



川井れんげまつり



地域子ども会とのしめ飾り作りや餅つき

経緯

- 荒廃田の解消のため、平成25年に3人のグループで稲作の活動を始めた。
- 集落営農組織による稲作等の生産及び農作業の協業化が不可欠と考え、平成26年3月3日、伊予地区集落営農組織等連絡協議会の設立時に「川井地区の農業を考える会(仮称)」として加入。

取組内容

- 伊予地区集落営農組織等連絡協議会に加入し、講習会や先進地視察に積極的に参加。
- 水稻、玉葱、里芋、キウイ、柿など多角的に作物の栽培・収穫・販売を開始。
- コスモスやレンゲによる景観の保護、夏祭りには手作り燈明を県道沿いに点燈、子ども会と一緒に注連飾りづくりなど、地域に密着した活動を行っている。

活動の効果

- 水稻の売上高が804千円から1,195千円に増加(H26→H30)。
- 組合が機能して作付けを復活させた耕作放棄地は、地域景観の保全を果たしている。
- 存続の危機にあった夏祭りに燈明を導入したことで来客数が増加に転じ、年々盛大になっている。その他のイベントでも地域全体のけん引役として定着してきた。
- 定年退職者の賛同、加入などで毎年組合員数も増えて活発な活動ができている。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域景観の保全や維持継承をするとともに、小さな地域限定の集落営農組織だからこそできる細やかな活動を展開していきます。

いずみだに

泉谷地区棚田を守る会

～絶景の棚田を核とした地域活性化～



棚田オーナー



「自然浴ツアー」の豊年おどり

経緯

- 泉谷地区の棚田が、平成11年に全国棚田百選に選定された。
- これをきっかけに、地域で棚田の機能・景観が資源として認識され、環境整備や保全活動を始め、未来へ棚田を継承する活動がスタートした。

取組内容

- 年間10～15組の棚田オーナーを受け入れ、交流、また、地元案内人と棚田めぐり、地元食材を楽しむツアーを開催。
- 学生が作業を手伝い、労働の対価として米を支給する「奨学米制度」に取り組む。
- 自治会でコミュニティカフェ、宿泊所を整備し、「泉谷の宿 花穂(かほ)」を平成29年7月にオープン。

活動の効果

- 地元イベントを開催することで、自治会を中心に棚田保全に関わる協力者が増加。
- 20年近く継続している交流事業の効果や、「美味しい棚田米」というツールにも恵まれたことにより事業運営は順調。また、「泉谷棚田」「御祓地域」の名前が大勢の人に認知されることにつながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

先代から受け継ぎ、守り続けてきた棚田は、地域のみならず内子町の宝となりました。様々な課題はあるものの、継続し発展させていく活動をしていこうと取り組んでいます。

のうどう くにひろ
納堂 邦弘

～「あるもの探し」から始める地域おこし～



出荷者と新たなオダメイド研究開発の状況



道の駅「小田の郷せせらぎ」での販売状況

経緯

- 平成26年10月、地域おこし協力隊として同地区に着任し山里ならではの農産物を使った新商品の開発などに取り組む。
- 平成29年9月に任期が切れた後も引き続き地域の課題を解決する各種取組を継続している。

取組内容

- 地元特産の人参芋やアピオスなど山里らしい素材での販売では商品価値が活かされていないことから、付加価値を付ける取り組みを始める。
- 地元農産物を使ったアイスクリームや焼き菓子、コンフィチュール等の商品開発。
- 地元小学3年生の総合学習の授業で、オダメイドの取り組みをテーマにし、通年交流。

活動の効果

- 地元酒造会社とコラボした純米吟醸アイスなど、次々と新商品を開発し、県内外で広く各種メディアで取り上げられ、道の駅への来場者や売り上げ増加に貢献。
- これまで普通の農産物と思って販売していた生産者の考え方にも変化が生まれ、栽培作物の多様化や付加価値を付ける重要性が浸透し、新商品開発につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の人たちが、自分たちの地域の良さに気づき、ここにしかないという誇りを持つことが大切。私はそれを「よそもの目線」で伝え続けるだけです。